

～とちぎの未来を考える～
栃木県議会 県政ミーティング

開催結果報告書

令和5年12月20日

佐藤 良、関谷暢之

山口恒夫、池田 忠、大谷弥生、渡邊典喜

松井正一、白石資隆、西村しんじ、あべひろみ

1 開催の目的

栃木県誕生150年を迎え「新しいとちぎ」づくりが目指される中、とちぎの未来を担う子どもたちに議会に対する関心を高め、理解を深めてもらうための主権者教育の一環となるよう実施するものである。

2 開催内容

(1) 第1回

ア 日時 令和5年10月25日（水曜日）14時25分から15時15分まで

イ 場所 県立大田原高校 体育館

ウ 出席者 大田原高校：生徒 1年生及び2年生約400名

県議会：佐藤良議長、関谷暢之副議長、池田忠議員、渡邊典喜議員、
山口恒夫議員、大谷弥生議員

エ 内容

(7) 開会

(イ) プログラム

① 正副議長、出席議員自己紹介

正副議長はじめ出席議員が自己紹介を行った。

② 県議会の役割・取組の紹介

佐藤議長から、県議会の役割や県（執行機関）との関係、常任委員会、議員提案による政策条例、議会ICT化の取組、地方自治法改正による地方議会の役割と議員の職務等の明確化について説明するとともに、議会広報の案内や議員50名の紹介を行った。

③ 質疑応答

生徒（4名）からの質問について議員が回答した。

－発言概要－

（生徒）県民の皆さんが考え、そして出た疑問というのは、議題で取り扱われたりするのでしょうか。

→（関谷副議長）我々議員は、皆さんの声を聞いて、議題にしています。また、皆さんからの請願・陳情について、議会として審議をし、取り上げたものについては、それを提言として執行機関につなげています。

（生徒）県議会では、政治的な物事を話し合っているイメージがありますが、常時開かれているわけではないので、ほかにどのような仕事をしているのか教えてください。

→（渡邊議員）地域のイベントなどに参加し、いろいろな要望を聞いています。

→（大谷議員）地域で開かれる座談会などに参加し、相談を受けています。

（生徒）日本では急速に少子高齢化が進んでおり、栃木県も例外ではなく、年々人口が減少し、労働力不足などの深刻な問題を抱えていますが、県では、どのような目標で、実際に何を行っているのですか。

→（池田議員）県では、「とちぎ創生15戦略」の中で、「とちぎに魅力あるしごとをつくる」や「未来技術をとちぎの新たな力にする」などの目標を掲げており、県内で魅力ある企業を育てるための支援や、希望する分野で活動できるようにするための人材育成、AIなど新しい技術の導入支援などを行っています。

→（山口議員）県では、少子化を打開するため「とちぎ少子化対策緊急プロジェクト」を取りまとめたところであり、9月議会で第一弾となる取組について補正予算を議決しました。日本を支える生徒の皆さんには、自分には何ができるかという視点で考えて、行動していただきたいと思います。

（生徒）議長の仕事では、これを変えたいというような野望をもっていますか。また、それを議長として実現できましたか。

→（佐藤議長）私は、少しでも若い皆さんの考えや思いを議会に反映したいという思いで取り組んできました。議長になり、本日県政ミーティングを開催できましたが、今後は、未来を担う皆さんが、主体的に栃木県のことを考えるきっかけづくりにも取り組んでいきたいと思っています。

④ テーマ別意見交換

テーマに対するアイデアについて生徒（計12名）から意見を発表し、議員がコメントを述べた後、佐藤議長が全体の総括を行った。

テーマ1 とちぎの未来のためにできること

－発言概要－

（生徒）

- ・ 栃木県の未来のために、栃木県産の物を積極的に買うことがいいと思います。栃木県産の物を積極的に買えば、生産者の活動が活発になっていくからです。

- ・ 課題研究のテーマに「栃木」を設定することで、調べる方はもちろん、発表を通じてもっと多くの人に栃木について知ってもらうことができ、栃木の未来につながるのではないかと思います。
- ・ 栃木県に国公立大学をつくることで、他県に出てしまう人や他県の人を呼び込み、将来的に県内に多くの優秀な人材を確保することができると思います。
- ・ 栃木県が明石市をモデルとし、子育て支援をより充実させることで、県の活性化につながるのではないかと考えました。具体的には、働く親を支援する保育施設などを増設し、また、学校給食をより良いものにすることを提案します。
- ・ 県民が、栃木の観光やイベント、グルメなどをSNSで発信する際に、「I Love Tochigi」などの共通のハッシュタグを使って投稿することで、栃木の魅力を伝えていけば、人々の関心も高まると考えます。
- ・ 若い人を中心としたたくさんの世代の意見を取り入れるために、気軽に意見できるアプリをつくるべきだと思います。

→（池田議員）

- ・ 県産品を買うことについては、県では、例えば、県産木材で家を建てる時に補助金を出すなどしており、より積極的に進めていく必要があると思っています。
- ・ 栃木県のことを調べることについては、県でもSNSやホームページ、ラッピング電車などで情報発信していますが、さらに発信していく必要があると感じました。
- ・ 県に国公立大学を設置することについては、私達もそのような思いを共有していきたいと思います。大学ではないが、農業大学校や林業大学校なども、地域に人が残ってくれる大きなきっかけになると思います。

→（関谷副議長）

- ・ 子育て支援策については、本県の特徴は何かということをお県の皆さんと共有をしながら、県が成長するために取り組むことについて議会の場で議論していきます。
- ・ 若い人の意見を反映することについては、何となく皆さんの意見が通らないと感じる部分に、投票率が影響する可能性があります。ぜひ投票に行くことをお願いしたいと思います。
- ・ 本県の魅力発信については、県も取り組んではいますが、農業、工業、観光などバラバラに発信されているところがあります。若い皆さんの発想とともに、本県の魅力発信について提案していきたいと思っています。

テーマ2 議会や政治への関心を高めるためには

— 発言概要 —

（生徒）

- ・ 若年層の投票率が低いのは、政治に対して難しいイメージを持っているからであり、若年層に対して分かりやすくし、理解や興味を持ってもらう必要があると思います。
- ・ 政治と距離を感じ、積極的に関われない状況を改善することが、若者の政治参加へ

の促進へとつながるので、子供の頃から政治と関わる場を設け、政治をもっと身近に感じてもらえるといったことが必要だと思います。

- ・ 議会や政治があまり分かっておらず、関心を持つことができない人が多くいるので、ポスター掲示やSNS投稿など、たくさんの人の目につく方法で県議会の仕事内容や取組について情報を発信していくことが大切だと思います。
- ・ 最近の若者は、わざわざ投票所まで足を運ばなければならない選挙を不便に感じることも多いので、投票率を上げるために、ネット投票を導入するべきだと思います。
- ・ 中学校では、総合的な学習の時間や公共で政治についての分野があり、議会や地方自治について学びます。高校でも授業を通して県議会について深く学び、早い段階で県議会について知ることが大切だと思います。
- ・ 多くの人が議員と距離感を感じているので、学校祭のようなイベントを議員が開催することで、距離が近づき、政治に対する関心も高まると思います。

→（渡邊議員）

- ・ 4月の県議会議員選挙の若年層の投票率が20%程度ということは、危機的だと感じています。議場での質問や答弁の言葉が難しいと思うことがあるので、なるべく分かりやすい言葉に変えていきたいと思っています。
- ・ 政治が遠いということについては、今の高校生にとって本当に遠いものでしょうか。例えば、県立高校再編についての当事者は皆さんですから、そういった皆さんの声を聞くという形での政治参加も進めていきたいと思っています。

→（山口議員）

- ・ 情報発信については、県議会の広報として発信をしています。また、議員と生に触れる県政ミーティングといった機会をつくっていくことが政治に関心を持つ一歩だと思いますので、力を入れて取り組んでいきたいと思っています。
- ・ 投票しやすい環境整備については、期日前投票ができるようになりました。また、若者が投票しやすいような場所に投票所を増やしています。ネット投票については、成りすましの課題もありますので、対策をする必要があります。

→（大谷議員）

- ・ 教育については、足利市には、高校生と行政が一緒になって行政課題を解決する取組がありますので、このような、高校生でも行政の取組を感じ取れることが第一歩なのではないかと思っています。
- ・ 議員との距離が遠いと感じることについては、県議は身近な存在である必要がありますので、県民の皆さんや高校生の皆さんと一緒に時間を共有する必要があると思います。

全体総括

－発言概要－

（佐藤議長）

これからの時代を支える皆さんが、少しでも政治に関心を持ってもらい、これからの

栃木県を我々と共に考えていくことが重要だと思っています。今日の提案については、しっかりと議会として受け止めて、今後の議会活動にも生かしていきたいと思います。

今日をきっかけに、皆さん方の中から将来県議会を目指したり、少しでも政治に関心を持ってもらえればありがたいと思います。我々も今のままではなく、しっかりと皆さんや若い人の意見が通るように、これからも議会の改革に努めていきます。

⑤ 副議長から生徒へのエール

関谷副議長が、大田原高校の生徒に向けてエールの言葉を贈った。

－発言概要－

(関谷副議長)

本日は、貴重な意見をいただきました。

各界で必ず活躍をする皆さんであります。政治の世界に行くもよし、そして、様々な社会の中で身近なところで、課題、不満も含めて政治が世の中をつくっていると感じる時は必ずあると思います。

どうか、今日の時間をどこか片隅に置いていただきながら、大高健児として絆をもって、これからの社会を築いていただきたいと思います。

(ウ) 生徒代表謝辞

生徒代表が、出席議員にお礼の言葉を述べた。

－発言概要－

(生徒)

生徒を代表し、心より感謝申し上げます。私が一番印象に残っているのは、私たち県民の声、反映されやすい環境が整っているということです。しかし、若い世代をはじめ、年々投票率が低下しており、政治に参加しないというのは、非常にもったいないことだと感じました。私たち若い世代が、率先して選挙に参加していきたいと強く思います。

私たち高校生は、選挙権が18歳に引き下げられたということもあり、選挙そして政治というものをより身近なものとして感じてきました。誰かがやってくれるからいいと他人事にするのではなく、きちんと自分たちに関係することだという自覚と責任感を持ち、積極的に政治に参加していきます。

本日は、ありがとうございました。

(エ) 閉会



(2) 第2回

ア 日時 令和5年11月9日（木曜日）13時35分から14時25分まで

イ 場所 壬生町立壬生中学校 体育館

ウ 出席者 壬生中学校：生徒 2年生約200名

県議会：佐藤良議長、関谷暢之副議長、白石資隆議員、松井正一議員、
西村しんじ議員、あべひろみ議員

エ 内容

(7) 開会

(イ) プログラム

① 正副議長、出席議員自己紹介

正副議長はじめ出席議員が自己紹介を行った。

② 県議会の役割・取組の紹介

佐藤議長から、県議会の役割と県（執行機関）との関係、県民の願いが叶うまでの流れ、
県議会の進め方について説明するとともに、議会広報の案内や議員50名の紹介を行った。

③ 質疑応答

生徒（12名）から質問があり、議員が回答した。

－発言概要－

（生徒） どうして県議会議員になろうと思ったのですか。また、仕事をしていて、楽しい
と感じることは何ですか。

- （白石議員）この国や大切な人を守るために命をかけてきた方々の思いを引き継ぐために政治家になりました。また、期待に応えられた時や思いを実現できた時は嬉しいと感じます。
- （生徒）演壇で立つときには緊張しますか。
- （白石議員）緊張しますので、緊張しないようになるべくゆっくり大きな声で話すように意識しています。
- （生徒）議員定数はどのように決まっているのですか。また、女性や若手の議員は何人ですか。
- （白石議員）市や町の人口の違いも意識しながら議会で定数を決めています。また、女性議員は9名、若手議員は30代が1名、40代が14名となっています。
- （生徒）町の人の願いがたくさん届いたときは、どのような内容を優先して条例をつくるのですか。
- （松井議員）たくさんの願いを分析して、議員が話し合っただけで皆さんの願いが叶うようにその考え方を整理しています。
- （生徒）私たちの願いが叶うまで、どのくらいの時間がかかるのですか。
- （松井議員）1年間でできるものや、調査等が必要で数年かかるものがあります。また、災害など緊急性のあるものはすぐに決めています。
- （生徒）県議会の話し合いがヒートアップすることはありますか。
- （松井議員）比較的穏やかに話し合いされているケースが多い印象です。県議会は積極的に意見を交わすケースが多々あり、どうしたら栃木県の未来のために役に立つかということについて意見を交わしています。
- （生徒）本会議の多数決で意見がまとまらなかったときは、どうなるのですか。
- （関谷副議長）地方自治法で、賛成・反対同数だった場合には、議長が判断をすることになっています。実際には、採決の前に十分に議論を交わしており、そのような例になるケースは稀です。
- （生徒）もし県議会で決定できなかった場合、国会などに意見を回すことはありますか。
- （関谷副議長）国、県、市町の役割があり、県のことは県が責任をもって意思決定しています。国の分野については、県議会として意見書を出しています。
- （生徒）傍聴席のある意味は何ですか。また、傍聴人に市民の声として意見を求めることはないですか。
- （関谷副議長）政治に参画する一つの方法として傍聴があります。その場で傍聴人が意見を言うことはできませんが、別の機会に議員が意見を聞いています。
- （生徒）「県議会とちぎ」に、伝統工芸品のブランド力向上ということが書いてありますが、その中の、新商品の企画・開発やPR動画作成の支援とは、具体的にどのようなことをしていますか。
- （佐藤議長）デザイナーを派遣して、人気ができるような新しい商品をつくったり、興味をもってもらえるような動画をつくって発信することを支援しています。
- （生徒）「県議会とちぎ」に書いてありましたが、都市部へ移住する人が多い中、栃木県

に移住をしてもらえ環境づくりとは、具体的にどのようなことですか。

→（佐藤議長）東京に窓口をつくって相談を受けたり、専用ホームページで栃木県の魅力を発信しています。さらに、移住するための支援金にも取り組んでいます。

（生徒）栃木特別支援学校の寄宿舎閉舎延期は、今どうなっていますか。

→（佐藤議長）現在、県教育委員会がいろいろな方の意見を聞きながら検討しているところです。私たち議員もそういった様々な意見をもらいながら、議論していきたいと考えています。

④ テーマ別意見交換

テーマに対するアイデアについて生徒（計5名）から意見を発表し、議員がコメントを述べた後、関谷副議長が全体の総括を行った。

テーマ1 とちぎの未来のためにできること

－発言概要－

（生徒）

- ・ 少子化対策として、子育てしやすい県にしたいです。子どもが増えれば、元気な県になると思うからです。
- ・ SDGsを進めることが必要だと思います。達成度が世界で第21位となっています。中でも、取組の評価が2番目に低い「ジェンダー平等を実現しよう」を積極的に進めることで注目が集まり、栃木県についてよく知ってもらえる機会となると思います。
- ・ 「自然豊かな地域」「住みよい地域」「商業が栄えている地域」など県の中で区分して決め、それぞれの地域づくりをすることを提案します。どれか一つの分野で成功したら、それを伸ばせばいいし、一つにしぼれなかったら、様々な文化が混ざりあう県として、発展できると思うからです。

→（西村議員）

- ・ 少子化対策について、県では、「とちぎ未来創造プラン」の中で「笑顔輝く子ども・子育て支援プロジェクト」を掲げて、子育てしやすい県にするための取組を進めています。
- ・ SDGsについては、プランに目標達成を掲げており、さらに、G7男女共同参画・女性活躍担当大臣会合の日光声明を通じて、完全なジェンダー平等実現への発信がされましたので、栃木県が先頭を切って取り組んで、更に知っていただくことを目指していきます。
- ・ 地域づくりについては、プランの中で「環境に優しい持続可能な地域づくり」や「暮らしやすい「まち」づくり」「とちぎの明日を創る産業成長」の各プロジェクトを掲げており、県誕生150年を契機として、更なる取組で人が育ち地域が生きる未来に誇れる元気な栃木県の実現を目指していきます。

テーマ2 議会や政治への関心を高めるためには

－発言概要－

(生徒)

- ・ 議会や政治に関係するマスコットキャラクターをつくって意見箱を持ってもらい、意見を集めるといいと思います。
- ・ 発信を受け取る側である私たち中学生に馴染み深いことや、生活にどのように関与しているかということ、具体例を通してアピールすると関心が高まると思います。

→ (あべ議員)

- ・ キャラクターをつくって意見を集めることについては、これまで、議会や政治のキャラクターはなかったと思いますので、皆さんで考えてもいいと思います。議員は、皆さんの意見や要望を伺っていますが、広く、誰からも集めるということはなかなかできないことなので、キャラクターを通して集めるということは、いいのではないかと思います。
- ・ 具体例でアピールすることについて、県の制度や仕組みについて意見を言っても、どのように反映されたのかが皆さんに伝わらないと、言っても無駄と思われるようになってしまいます。意見のように、生徒の皆さんに馴染み深いことや関心事に対して具体的に分かるような発信をしていけば、興味や関心が芽生えてくれると思います。

全体総括

－発言概要－

(関谷副議長)

政治とは決して遠いものではなく、自分たちの生活にとっても密着しているものです。皆さんも近い将来、投票権を得ることになるので、ぜひ政治に積極的に参加していただきたいと思います。

⑤ 議長から生徒へのエール

佐藤議長が、壬生中学校の生徒に向けてエールの言葉を贈った。

－発言概要－

(佐藤議長)

皆さんの学校のエアコンの設置や洋式トイレなど、県と町が相談して決めています。このように、政治は学校にも近い立場であるので、ぜひ引き続き、関心を持ってもらいたいと思います。

これから皆さんは、高校に進学し、社会に出て、いろいろな出会いや経験をしたいと思います。時には大きな壁にぶつかることや、悔しい思いをすることもあると思います。しかし、皆さんが諦めずにがんばっていれば、周りの人は認めてくれて、応援してくれるようになりますので、まずは、学校生活の中で自分は何がやりたいのか、そして、自分に何ができているのかを考えて、ぜひ夢や希望を持って挑戦し続けてください。

本日このような機会を作らせていただいたことを感謝します。少しでも生徒の皆さん

が政治に対して興味や関心を持って、将来政治家を目指したり、地域を支えられるような人になってください。

(ウ) 生徒代表謝辞

生徒代表が、出席議員にお礼の言葉を述べた。

－発言概要－

私たち壬生中生は、地域探究学習「壬カアッププロジェクト」の下、壬生町の活性化について探求を進めてきました。そして、議員の話を受け、未来を担う私たちが大きく携わっている実感を持つこと、また、壬生町民の一人としても、どう貢献していくべきなのか改めて考えさせられる機会となりました。本日の学びを生かして、今後も地域探究学習に励んでいきます。

ありがとうございました。

(エ) 閉会



3 県民への情報発信等

(1) 県議会広報

ア 県議会公式X（旧ツイッター）での情報発信（計8回）

イ 県議会広報番組「県議会ハイライト」での放送 12月3日17:30～18:00（一部）

ウ 県議会広報紙「県議会とちぎ」への掲載 NO.152号（12月3日発行）に写真を掲載

※NO.153号（2月4日発行）で特集予定

(2) メディア

- ア 下野新聞 10月26日朝刊、11月10日朝刊、11月16日朝刊
- イ 読売新聞 11月7日朝刊
- ウ とちぎテレビ 10月26日放送
- エ ケーブルテレビ栃木 11月9日放送

(3) 事例発表

12月1日全国都道府県議会議長会「多様な人材が輝く議会のための懇談会」において佐藤議長（懇談会副座長）が、県政ミーティングについて事例発表を行った。

4 アンケート結果（回答 大田原高校259 壬生中学校157）

問1 議会の取組の説明について

説明は分かりやすかったですか。

回答項目	大田原高校	壬生中学校
分かりやすかった	40.15%	69.43%
やや分かりやすかった	31.66%	18.47%
普通	20.85%	7.64%
やや分かりにくかった	5.02%	2.55%
分かりにくかった	2.32%	1.91%

問2 質疑・応答について

県議会や議員への理解は深まりましたか。

回答項目	大田原高校	壬生中学校
深まった	29.73%	48.41%
やや深まった	41.70%	33.12%
普通	17.37%	14.01%
あまり深まらなかった	6.18%	2.55%
深まらなかった	5.02%	1.91%

問3 テーマ別意見交換について

栃木県の将来や政治への参加について、興味・関心は高まりましたか。

回答項目	大田原高校	壬生中学校
高まった	28.96%	38.85%
やや高まった	44.79%	44.59%
変わらない	26.25%	16.56%

問4 県議会及び県議会議員について

県議会及び県議会議員について、身近に感じることができるようになりましたか。

回答項目	大田原高校	壬生中学校
感じられるようになった	27.80%	38.22%
やや感じられるようになった	45.95%	48.41%
変わらない	16.22%	10.19%
あまり感じられなかった	6.95%	2.55%
感じられなかった	3.09%	0.64%

自由意見（抜粋）

大田原高校

- 県議会がどのような人により進められているのかよく知ることができた。
- これからを担う身として積極的に政治について調べてみようと思った。
- 議員と直に対話ができるとてもよかった。
- 熱のある質疑応答で圧倒された。次回も大田原高校で開催してほしい。
- 積極的に投票に行こうと思えるようになった。
- 事前に質問を用意するのはよく思わなかった。
- 質問に対しての答えが曖昧な部分が多かった気がした。
- もう少し質疑応答の時間がほしかった。

壬生中学校

- 県議会や政治に対する理解と関心が深まった。
- 選挙権を持つ年齢になったら積極的に投票をして政治に参加したい。
- 初めて近くで見て、議会と生活との身近さを感じることができた。
- どんな質問でも分かりやすく回答してくれて聞きやすかった。
- 社会貢献や地域探究学習などへの関心や熱意がさらなるものへと変わった。
- 議員だけでなく、ほかの仕事とも両立できることを初めて知った。
- 条例や町のことについてどのように決めているかなどを知ることができた。
- 事前に準備した提案に対して答えるだけでなく、その場で何回も議論ができたらしい。

5 参加議員の感想

(1) 大田原高校

池田議員 生徒たちの県政に対する関心の高さに驚きました。具体的な提案もあり、若者たちの発想は議員活動に大いに参考になり、議会として取り上げたいような内容もありました。生徒たちの政治意識を高め、議員にとっても収穫の多いものでした。

山口議員 現場の高校生の生の声をお聴きし、若者が政治に無関心であるなどというのは、勘違いであると感じました。特に、報道等で、私たちの声が政治や議会に届くこ

- とを実感できたという感想に、もっとこういう機会を増やすべきと感じました。
- 渡邊議員 高校生と触れ合える貴重な機会でした。質問などからもどのように県議会議員が見られているかが伝わってきましたし、改めて議会の情報を直接かつ丁寧に発信していくことが大切だと認識しました。もう少し時間があるとよかったですと感じました。
- 大谷議員 大田原高校の生徒さんから沢山の意見や提案をいただきましたので、私にとってもよい経験となりました。機会があれば、また、参加したいと思ひますし、今後も継続して実施していくことを望みます。

(2) 壬生中学校

- 白石議員 新鮮で楽しい時間であり、中学生に分かりやすい回答を考えることが勉強になりました。また、中学生から議員に対して評価してもらおうと我々も参考になり、さらに生徒と真剣に向き合えると思ひます。教育問題など生徒と直接関係する話題があると生徒も興味を抱きやすいと感じました。
- 松井議員 主権者教育を目的に、県議会改革の一環として初の取組でしたが、壬生中生徒の皆さんの真剣な参加態度に感心しました。また、中学生の質問に時間制限で的確に答弁するといった経験は、大変勉強になりました。貴重な機会を与えていただき感謝いたします。
- 西村議員 中学生の皆さんに対する県議会の役割・取組説明や質疑応答ならびにテーマ別意見交換の実施は議員として初めてで貴重な経験となりました。また、思った以上に政治への興味や関心を持っていることに対し希望を感じました。
- あべ議員 生徒の皆さんと顔を見合わせながら、直接意見交換ができたこと、県民の声や要望が反映されることを知ってもらうことで、政治や議会を少し身近に感じ、興味・関心を持ってもらう良いきっかけになったと思ひます。

6 まとめ

「～とちぎの未来を考える～ 栃木県議会 県政ミーティング」は、県民により身近で開かれた県議会を目指す取組として、栃木県誕生150年を迎え「新しいとちぎ」づくりが目指される中、とちぎの未来を担う子どもたちに議会に対する関心を高め、理解を深めてもらうための主権者教育の一環となるよう、本県議会として初めて実施することとしたものである。

また、県議会を取り巻く状況として、政治や議会への関心の低下が指摘されていることや、先の県議会議員選挙を含め特に若年層の投票率の低さが顕著になっていること、さらには、県議会の活動に対する情報発信不足を指摘する声もあり、これらの課題に対し、県議会として真剣に向き合っていくことも念頭に置きながら、本取組を実施したところである。

出席議員については、会場の都合で出席者数が限られる中、各会派の希望議員が出席できるよう調整が行われ、当日に向けては、出席議員による事前打ち合わせを実施し、県議会を代表して出席するという点について、認識と自覚を共有したところである。

なお、実施校の選定については、比較的短期間での調整となったが、県教育委員会そして大田原高校及び壬生中学校の多大なる協力によって、決定に至ったところである。

こうして開催した県政ミーティングについては、参加議員は事前準備をしっかりと行ったうえで、当日は生徒に分かりやすい表現で説明するなど、生徒の理解につながるよう努めたところである。

また、開催校においては、これまでの学習内容や研究活動等を踏まえて当日に臨んでいただき、参加生徒からは、県議会や県議会議員に対する率直な疑問や質問が寄せられるとともに、とちぎの未来に向けた取組や、政治・議会への関心を高めるための取組について具体的な提案があり、本取組の目的とした主権者教育の一環につながったものとする。

さらに、参加議員においても、生徒に対する県議会への関心を高めることにつながったとの実感を得ることができたことに加え、生徒からの質問や意見によって新たな気づきにつながり、非常に意義があったところである。

こうしたことから、今回の県政ミーティングについては、概ね成功であったと総括できると考える。

課題としては、開催時間を授業の1コマ50分で設定したことから、発言できる生徒の人数や発言時間、自由な意見のやりとりに制限があったことがあげられる。また、今回、2校の協力があって開催につながったが、今後同様に開催する場合は、開催校の選定方法や実施回数、参加議員の調整方法等についても検討する必要がある。

今回の県政ミーティングに参加した議員一同は、生徒との意見交換等を非常に有意義に感じているところであり、県民により身近で開かれた県議会を目指し、こうした取組を継続していくことが、本県議会にとって、そして県民にとっても有効であるとする。

今後の取組については、県議会としてしっかりと検討・協議していくことが重要である。

(参考) 実施経過

令和5年

- 8月28日 正副議長から県民により身近で開かれた県議会を目指す新たな取組を行うことについて提案があり、各派代表者会議において協議（決定）
- 8月28日から9月4日 新たな取組について全議員に意見照会
- 9月11日 議会運営委員会において照会結果に基づく取組案について協議（決定）
- 10月25日 大田原高校において開催
- 11月9日 壬生中学校において開催
- 12月20日 議会運営委員会において開催結果報告